

科目名	スポーツ運動学特講	担当者	コヤマ ユウゾウ 小山 裕三	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>スポーツ運動学では、現象学的立場から人間の運動の構造と発生について学ぶことを目的とする。具体的には、運動モルフォロジーの方法を基に進められてきたスポーツ運動学研究のこれまでの文献やその研究方法などを精査し【A-4:4】、その中で取り扱われる運動質や、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法といったいくつかのキーワードを基に、自身が対象とするスポーツにおけるスポーツ運動学的観点からの包括的な理解を深める【A-3:4】。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 スポーツ運動学における運動質、運動体系、運動構造、運動観察、運動学習、運動の発達、運動の指導方法がどのような事を意味し、どのように研究していくべきかについての方法論を理解する。 【行動目標 (SBOs)】 スポーツ運動学における運動モルフォロジーを中心とした主要な研究課題が、どのような課題であるかを整理し(知識・解釈)、これまでの知見を基に、自身の対象とするスポーツでの課題についてその課題を発見し、解決するためのスポーツ運動学的観点からの方法論を示すことができる(知識・問題解決)。</p>		
学修方略 (方法)【LS】と 学習時間	<p>①基本教材を熟読し課題に取り組むにあたり、必要な用語や表現の理解を深める(自習)【25時間/レポート1本】 ②レポート課題で自身が対象とするスポーツにおける技術に関する課題を分析する(自主研究)【10時間/レポート1本】 ③レポートの素案を作成する(レポート作成)【5時間/レポート1本】 ④manaba folioの掲示板機能を用いて教員および受講生と作成した素案を基にディスカッションを行い最終的なレポートの作成を行う(ディベート・レポート作成)【10時間/レポート1本】</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)については7月末日、課題(2)は8月末日を目処に提出すること。取り上げる題材について、掲示板を用いたディスカッション及び直接面接を行い相談することが望ましい。いずれの課題も9月19日までにまとめて提出する。 後期：教材2のレポート課題(1)については11月下旬、課題(2)は12月下旬を目処に提出すること。取り上げる題材について、掲示板を用いたディスカッション及び直接面接を行い相談することが望ましい。いずれの課題も2020年1月14日までにまとめて提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	内容については、課題に対する妥当性、これまでの文献精査からの知見の反映、研究対象とするスポーツに関する自身の考察がふくまれるか否か、その他レポートの構成を含めて評価する。
	観察記録	20%	ポータルシステムを用いたレポート作成に関する積極的な態度などを評価する。
履修者への要望	<p>①レポートを作成する前に、レポートのテーマや構成について、数回直接面接を行い相談することが望ましいです。叶わない場合はメール等で連絡相談して下さい。 ②レポートのテーマとして設定するスポーツ種目は自由に選択して問題ありませんが対象とするスポーツに一定程度の理解がある種目を選択してください。 ③レポートの構成については、参考文献の記載の仕方も含め別途指示しますのでその内容に従い記述してください。 ④スポーツ運動学に関する最新の知見を概観し、レポート作成に必要な文献は積極的に確認してください。 ⑤その他質問等がある場合はメール等で連絡してください。また、面接の必要がある場合は、必ず事前にメール等で相談してください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ①朝岡正雄 著 教材名： 「スポーツ運動学序説」(不昧堂出版, 1999年) ISBN:4-8293-0380-8 6300円+税 著者名 ②三木四朗 著 教材名： 「器械運動の動感指導と運動学」(明和出版, 2015年) ISBN:978-4-901933-37-3 2200円+税
	① スポーツ運動学に関する用語等の整理などに必要な手引き的テキスト ② 運動学習及び創発能力を考える際に必要な実践例が多く取り扱われているテキスト
参考図書	金子明友・朝岡正雄 編著 「運動学講義」 ISBN:978-4-469-26177-6 (大修館書店, 1990) 2000円+税
履修上のポイント	本課題においては、スポーツ運動学で取り扱われる競技力、体力、技術、戦術などの理解を深めた上で課題に取り組み、そこで取り上げるべきテーマについてスポーツ運動学的観点から考察する。指定した教材・参考図書に加えて、これまでのスポーツ運動学での文献を精査し取り入れること。
レポート課題 1	スポーツ運動学的観点からの運動技術の理解を踏まえ、自身が対象とするスポーツにおける運動技術を1つ挙げその技術の運動学習の過程を自身の経験も含め記述しなさい。 <b>留意点</b> ：運動技術、運動学習とはどのように説明されるのかを理解しておくこと。
レポート課題 2	課題1で取り上げた運動技術に対して自身が持つコツ、カンを運動学習の位相ごとに精査し、そのコツ、カンについてどのような創発能力によって支えられているのかを含め記述しなさい。 <b>留意点</b> ：コツ、カンとはどのような意味を持つのかについて理解しておくこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 森直幹 著 教材名： 動きの感じを描く ISBN:978-4-901-93338-4 (明和出版, 2015) 2200円+税
	運動における動きの特徴について画で示し、その動きのポイントを解説するために必要なテキスト
参考図書	ウルリヒ・ゲナー著 佐野淳 朝岡正雄 監訳 「スポーツ運動学入門—スポーツの正しい動きとは何か—」(不昧堂出版, 2003) 3000円+税
履修上のポイント	スポーツ運動学の文献等で実際に用いられている画で示されている動きの特徴やその動きに内在する動きのポイントについて前期レポートで取り扱われた創発能力と指導に必要な促発能力との関連性を理解し、自身の運動指導や運動技術の捉え方について自ら表現することを含め考察を行う。
レポート課題 1	スポーツ運動学的観点からの運動指導の理解を踏まえ、自身が対象とするスポーツにおける運動技術を1つ挙げその運動技術にとって重要な場面をいくつか取り出し、教材及び文献を参考に作画しなさい。その際になぜその場面を取り出したか、その場面が重要な理由等を付記すること。 <b>留意点</b> ：作画が困難な場合は連続写真をトレースするなどして対応すること。
レポート課題 2	課題1で取り出された運動技術における指導上のポイントについてその運動の特性や促発能力の観点を踏まえ、記述すること。 <b>留意点</b> ：促発能力に関して理解を深めておくこと。